



# 千葉市立貝塚中学校 学校だより

校訓： 自主・創造・練磨

第19号

令和2年11月13日発行

千葉市立貝塚中学校

TEL231-7077

## ◆ブスの25箇条◆

校長 北島 啓行

以前勤務していた学校で、宝塚音楽学校に進学した生徒がいました。兵庫県にある私立高等学校で、“タカラジェンヌ“と呼ばれる学校です。休業中に千葉に帰省した折に中学校によってくれた時に、高校に伝わる「ブスの25箇条」といものについて、1枚のプリントを見せてくれました。

|                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 笑顔がない               | お礼を言わない          |
| 美味しいと言わない           | 精気がない            |
| 自信がない               | 愚痴をこぼす           |
| 希望や信念がない            | いつも周囲が悪いと思っている   |
| 自分がブスであることを知らない     | 声が小さくイジケている      |
| 何でもないことに傷つく         | 他人に嫉妬する          |
| 目が輝いていない            | いつも口がへの字の形をしている  |
| 責任転嫁がうまい            | 他人をうらやむ          |
| 悲観的に物事を考える          | 問題意識をもっていない      |
| 他人に尽くさない            | 他人を信じない          |
| 人生においても仕事においても意欲がない | 謙虚さがなく傲慢である      |
| 他人のアドバイスや忠告を受け入れない  | 自分が最も正しいと信じ込んでいる |
| 存在自体が周囲を暗くする        |                  |

なるほど、ブスという言葉自体はあまり良い言葉ではありませんが、外見ではなく、中身つまり心や気持ちの在り方を説いているものだということです。清く、正しく、美しくありたいものです。

## ◆出前授業◆

～千葉県立京葉工業高等学校の先生をお招きして～

2年生のキャリア教育の一環で行っている出前授業も3部作の最終回、「上級学校を学ぼう」というテーマで、千葉県立京葉工業高等学校の先生をお招きして行われました。

専門学科の高等学校ということで、普通科の高校との教育課程や学ぶ教科の違い、学校生活や進学・就職について学びました。生徒にとっては、専門学科の高校のカリキュラムとして専門教科の授業が1年生で30%、3年生では50%であることや、就職率がよく有効求人倍率が高いこと（生徒一人に対して10社ほどの求人がある）などが新鮮に感じたようです。また、今回講演して下さった方は建築科の先生ということもあり、長さ5mほどのダ・ヴィンチ橋のオブジェを展示したり測量や調査をするドローンを実際に見せてくださったりと、とても興味深いものでした。

ダ・ヴィンチ橋の名にあるレオナルド・ダ・ヴィンチとはルネサンス期を代表する芸術家であり、「モナ・リザ」や「最後の晩餐」などを手掛けた画家として有名ですが、科学分野でも非常に秀でていました。「ダ・ヴィンチの橋」として知られている不思議な自立アーチ橋もそのひとつです。この橋は釘や接着剤を使わず、摩擦により組み合わせるだけで簡単に作成でき、高い強度を誇ります。

今回の出前授業では、建築科の先生が角材で作ったダ・ヴィンチの橋を本校の先生が実際に渡ってみて強度を実証しました。また、生徒一人一人に割りばしで作った10分の1の模型をお土産にいただき、実際に製作をしてみました。



～出前授業に参加して～

今日は京葉工業高等学校のことやダ・ヴィンチの橋のことを学習しました。工業高校であるからこそ、専門教科の授業時数が多いとは思っていましたが、3年生で50%もの割合を占めていることに驚きました。また、高校を卒業して就職する方が多い学校なので、社会のマナーなど、人として成長ができる点にとっても魅力を感じました。私はものづくりが苦手なのでダ・ヴィンチの橋を作ることができなかったのですが、家でまたチャレンジしたいと思います。来年の進路を決める際に、とても視野が広がりました。

<2年 代表生徒>

## ◆進路説明会から三者面談に向けて◆

11月の声を聞くと3年生にとっては進路説明会や三者面談が始まり、いよいよ今後の進路を決定するための大事な時期となりました。生徒が自信をもって自らの進路に向かうために、3学年の職員一同相談にのれる体制を整えております。ご家庭でも十分な話し合いをお願いいたします。

さて、進路面談ですが、これには大きな前提があります。それは、「決断は生徒自身がする」ということです。ある高等学校の校長先生は「保護者は応援団長、教師はコーチ」とおっしゃっていました。生徒が自分の意志で決定することは、自分の進路に責任をもつということにつながります。しかし、「好きなように決めなさい」では保護者や教師は必要ありません。進路を考える上での良きアドバイザーでありたいと思います。

ご家庭で進路の話をする際、忘れてはならないのは将来の希望との関わりです。進学した学校・学科が将来の進路希望とつながっていることが大切です。職業に就くまでの経緯を考えて、中学校卒業時の進路を選択するのが最善です。そのうえで、生徒の将来にとってどうすることが一番良いのか、生徒の個性・能力・適性にあった道を考え、相談を進めていただければと思います。偏差値や点数は受験の難易度を測る尺度でしかありません。「自分を生かしてくれる」「自分の選んだ学校は素晴らしい」と誇りをもって進めることが大事なことです。

